

QUI INCOMINCIA IL LIBRO DELLA NOVA ESIGENZA E DELLA SUPRENNIA VIRTU

小幡英資

それはちっぽけな日常の生活、ちっぽけな人間の生活だった。死んだ男は自分にいきかせる—「このちいさな日々を偉大な一日のなかにいだきとり、このありふれた生活を偉大な生の領域に据えないかぎり、すべては破滅だ。」僕等の親分は自由の人で、青空に行く鷹のようだ。もとより大胆不敵な奴で、計画し、遂行し、予言し、思考し、創見するかれは生活を創造する親分！私に言わせれば新しい芸術家達が美を解さぬブルジョアを攻撃するのは流行になって了えば実に退屈で馬鹿げた事だ。

乾物屋は諸君が考えているよりずっとまともな人間なのである。彼はドラクロアの美に打たれたいと憧れている人間なのだ。それを解放された職人どもが邪魔をする。絶対的でありながら、面も各人各様の自由というささやかな所有物くらい弄ぶのに危険なものはない。これを弄んでは努力も意志もばらばらにして、独創を言いながら模倣ばかりしている画家の群れが登場する。こういうブルジョア芸術家どもがブルジョアとドラクロアとの間に立ちはだかり両者を離れ離れにしてう。彼等はブルジョアより千倍も危険な人間だ。

「今や 絵画を殺すものは画家である。私生児とその母。けれども私たちは古い道徳とどこまでも争い、太陽のように生きるつもりです、どうかあなたもあなたの闘いをたたかい続けて下さいまし。革命はまだちっとも何も行なわれていないんです。もっともつとくつもの惜しい貴い犠牲が必要のようでございます。いまの世の中で一ばん美しいのは犠牲者です。自由の道徳が問題なのだ。この道徳とわれわれの哲学とのあいだに矛盾がなければ、それ以上なにも求めるものはない。

アンガジュマンの型は時代によって違っている自分をアンガジェすることが革命をおこすことであった時代には『宣言』を書くべきだったのだ。様々の党派があつてそれぞれ革命を唱えている時代のような時代にはアンガジュマンはそれらの党派のどれかにはいることではなく観念を明瞭にしようと試みることだ。立場をはつきりさせるためにも、また同時に様々の革命派に働きかけようとするためにも主よ、あなたがわれわれに善を行なう手段を断ち切っておられるならなぜはげしい欲望だけをあたえられるのです。わたしが善良になることをゆるされないならば、なぜわたしから悪人になる欲望をとりあげられたのですか。とにかく出口のないのが不思議だ。なぜ話しかけるふりなぞする？ どうせ返事のないことを知ってるくせに。この沈黙はなぜなのだ？ まぬけた予言者にさえ姿を見せてくれぬのだ？ お前なんか数に入らぬからだよ。お前が弱い者を拷問しようが、自分をさい

なむ苦行をしようが、娼婦の唇に接吻しようが、難病やみの口に接吻しようが、困苦で死のうが、淫樂で死のうが、神さまにはどうでもいいことさ。じゃ、数に入るのは誰だ？ 誰もいないよ。人間は虚無だよ。びっくりした顔をしなさんな、お前さんはいつだってそれをよく知ってたはずだよ。骰子を振ったときちゃんと知っていたよ。でなきゃなぜいちきなぞやった？ ではまた明日お目にかかります。いや帰り途ですか、もうお分かりになりますよ、その橋のたもとでお別れします。夜は決して橋を渡らないことにしているんです。これはある誓いの結果なんですがね。まあ考えてごらんください。誰かが身投げしたとする、採る道は二つに一つ、追いかけて跳び込んで自殺人を救い出すこと、この寒空で下手をするとこちらまで死ぬかもしれない？ もう一つは見殺しにすること。しかし跳び込んで救ってやればよかったという気持は、しばしば肩の凝りの原因となるものです。ではおやすみなさい。え、なんですか？ われわれは人民のために描いた それに反して、彼らはニューヨークの画商のために、お金のために描いている。彼らはメキシコ人の誇りをすて、精神的な国籍喪失者になり下ろうとしている・・・ メキシコがなんだ、社会主義がなんだ、人民がなんだ、私には私があり、私の芸術がある。それがすべてじゃないか。幕はあき、辞書不信論者登場。それも一人二人ではなく。

And I heard the number of them that were sealed, a hundred and forty and four thousand, sealed out of every tribe of the children of Israel: